

学芸員おススメ 夏休み自由研究のヒント

大田区の歴史や文化の入門書は、これだ！

『おおた歴史探検』（2014年発行） 300円

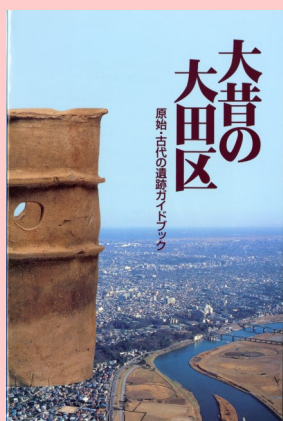


大田区には、大田区ができるよりずっと前、およそ3万年前から人が住み生活をしていた痕跡が発見されています。この本には、皆さんが知っているようで知らない大田区の歴史や文化がたくさんつまっています。

自由研究で「何をやろうかな？」と考えている人は、まずこの本を読んでもみるのをおすすめします。

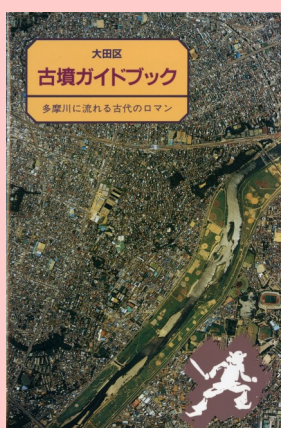
区内の遺跡や古墳を調べるなら…

『大昔の大田区』（1997年発行） 300円



大田区には人々が残したくらしのあと（遺跡）が約240あります。この本では区内の主な原始・古代の遺跡や遺物を紹介しています。土器や石器など、どのような資料が見つまっているのでしょうか。大昔の人々の道具を調べてみましょう。

『大田区古墳ガイドブック』（2016年4版発行） 200円



大田区が多摩川流域には古墳とよばれる古代人のお墓があります。中からは鉄の剣やまが玉などの様々な資料が発見されています。このガイドブックは古墳とその時代を紹介しています。付属の古墳マップを見て多摩川台公園の周辺を歩き、どんな場所に古墳がつくられたか調べてみましょう。

田園調布にある区立の古墳展示室でその時代のイメージをつかむこともおすすめします。

大田区の代表的な産業だった海苔づくりとは…

『大田区海苔物語』（1993年発行） 200円



江戸時代以来、大田区の手で生産された海苔は、質・量ともに長らく日本一の座を保っていました。輝かしい300年の海苔産業の歴史と地域の伝統を詰め込んだ1冊です。

区立の大森 海苔のふるさと館に行って、実際の海苔づくりの道具を見ることもおすすめです。

すがたを消した六郷用水の流れを知るには・・・

『六郷用水散策MAP』（2023年発行） 100円

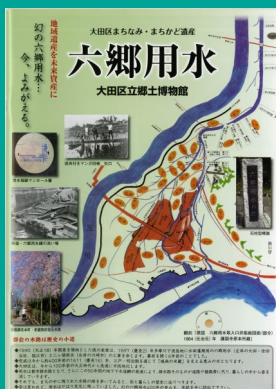


江戸時代、大田区内でお米の生産を増やすため、用水路（人工の川）を引く工事が行われました。この用水路を六郷用水といいます。水田がなくなり、用水路は地下にうめられ、今は道路や公園になっています。用水路は大田区内のどこを、どのように流れていたのでしょうか？

このMAP（地図）はすがたを消した六郷用水の主要な流れを記しています。地図を持ってまちの中を歩いてみると、水につながるいろんな“発見”があるかもしれません。この夏は水路あとを探して大田区内を歩いてみませんか？

親子で学ぶ六郷用水の歴史と仕組み

『大田区まちなみ・まちかど遺産／六郷用水』（2022年4刷発行） 350円



江戸時代に開かれた六郷用水は、その後どのような歴史をたどったのでしょうか？また、米作りに必要な水はどこから、どのように大田区内に運ばれたのでしょうか？そんな疑問に答えてくれるのがこの本です。内容はちょっとむずかしいので、大人の方といっしょに読んでみましょう。自由研究にも活用できる図表や写真をたくさん載せています。この本を読んで、疑問に思ったことは、郷土博物館に来て、学芸員に質問してみましょう！

「文士村」って何だろう？

『馬込文士村ガイドブック』（2022年4刷発行）200円

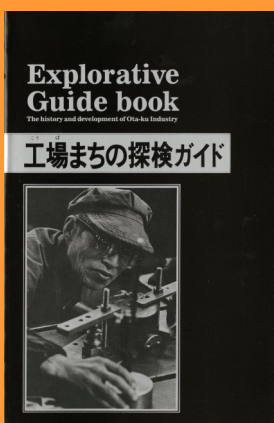


大正時代の終わりから昭和のはじめごろまで、馬込・山王・中央にはたくさんの作家や絵描きが住み、のちに「馬込文士村（まごめぶんしむら）」と呼ばれました。皆さんはどんな作家や絵描きが住んでいたのか知っていますか？実は大田区にある小学校の校歌の歌詞を作った人もいます。

この本を読んで、どんな作家や絵描きがいつ、どこに住んでいたのかを調べてみましょう。

「ものづくりのまち」のヒミツをさぐる

『工場まちの探検ガイド』（1994年発行）300円



私たちの住む大田区にはたくさんの工場があります。そのため、大田区は「ものづくりのまち」と呼ばれてきました。小さな工場では、大きな工場に負けない、より良いせい品を作っています。小さな工場にはどんなヒミツがあるのでしょうか？この本には「ものづくりのまち」を見て、歩いて、知るためのヒントがたくさんあります。